

令和5年度きみの地域づくり学校座学編第2回実施報告

【日時】2023年10月21日（土）、22日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘

【参加者】受講生30名（社会人18名、大学生9名、高校生3名）、
スタッフ16名、運営協議会会員4名、その他（町議会議員等）6名 計56名

【内容】

「みかん農家の継承と6次産業化」

講師：善兵衛農園 井上 信太郎氏



講義内容

実家の農園を受け継いだみかん農家として、また、田村地域のコミュニティの一員として、地域愛に溢れ、様々な人と共創されている取り組みの数々についてご講義いただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・家業の農家をただただ受継だけで無く、アップデートして行く姿にたのしく思いました（社会人）
- ・農業を1つのツールや手段として、販売から様々なイベント、関係人口づくりまで、捉え方1つでいろんな可能性を生みだせるのだと感じました（民間企業）
- ・地域の方、スキルを持った方を巻き込むことの重要性を学ぶことができました（大学生）

「新規就農と6次産業化」

講師：きみのフルーツ 代表 吉瀬 雄也氏



講義内容

新規就農と加工品に関する取り組みについて、苦労話等も交えながらリアルにお話しいただきました。また、就農時に事業計画を立てていたことや、今後の中長期計画についてもお話しいただき、農業においても計画を立てて取り組むことの重要性についてお話しいただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・給料は会社員時代の方が良いが、満足度は今の方が大きいと言っておられ、何を大切にしたいか考えさせられました（民間企業）
- ・現在の6次産業化の問題点や課題などがわかって良かったです（行政）
- ・新規就農をするにあたって、事業計画を立てる、目標を立てることの大切さを実際のお話から学ぶことができました（大学生）

「食と農の流通とマーケティング」

講師：和歌山大学 教授 岸上 光克氏



講義内容

流通とマーケティングの理論について多様な食品の具体例を交えながらご講義いただきました。普段触れる機会の少ない卸売市場の仕組みや、実際に商品販売を行った際の経験からの販売戦略等、興味を引く多様な切り口からお話いただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・一番ささったのは、売れない商品はない→ニーズのある消費者とのマッチング=場所という話でした（民間企業）
- ・同じ商品でも価格が異なる背景には流通経路の違いがあるんだと感じました（大学生）
- ・色々なアイデアから多くの商品が世の中で売られているため、求めている消費者といかにマッチングしていくかがこれから大切な点になると思いました（大学生）

きみの地域づくり学校 藤田 武弘校長 挨拶

座学編の最終回ということで藤田武弘校長（追手門学院大学 教授）からご挨拶をいただきました。



藤田校長からは、「(昨晚の夕食交流会において) 皆さん自身の成長をすごく自覚されているということの発言が非常に多かったということで、すごく成果のあった学校だったかなという風に思います」、「2回目、3回目と続いてご参加いただければ非常に嬉しい」とありました。

【今後の予定】

10月から12月 実践編（インターンシップ）

※受講生（47名）のうち希望者（16名）が12事業者にわかれて実施

3月 修了式

【事務局（担当：藤井）より】

今年度の座学編の最終回でしたが、交流会等での様子からこれまでの半年間を通して参加者間の繋がりができていることを強く実感しました。座学編で終了となる方もいらっしゃいますが、これで終わりとするのではなく、今後も参加者間そして学校や地域との繋がりを維持していきたいと考えています。また、今後も実践編（インターンシップ）が12月末まで続きますので、事務局として受講生の学びを継続的に支援して参ります。